

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立巽東小学校

令和 7 年 4 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

(生活面)

- ・学校全体でポジティブ行動支援等に取り組んだ結果、主体的に行動できる児童が増え、きまりを守り、互いを尊重し、楽しく学校生活を過ごすことができる児童が育ちつつある。
- ・ポジティブ行動支援の取り組みや特別活動の活性化により徐々に自己肯定感が高まりつつある。引き続き児童会活動や学級活動を充実させ、児童が活躍できる場を設けるとともに、キャリア教育など将来の目標を持たせるきっかけとなる取り組みを進めていく。
- ・自分の感情をコントロールしたり、思いをうまく伝えられなかったりすることがトラブルへと発展してしまうケースがある。個に応じた支援をさらに進める必要がある。
- ・SNS 上での誹謗中傷やオンラインゲーム上でのトラブルが増加している。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、学校に登校しづらくなる児童が増加している。

(学習面)

- ・小学校学力経年調査の結果を見ると、学年・教科によっては大阪市平均に近づいているものもあるが依然として学力差が大きく、特に低位層の割合が高い。学習意欲の高まりはうかがえるが、学習習慣や読書習慣等の定着などには 2 極化がみられる。
- ・国語科の研究を進めた結果、物語文の「読み」を通して自分の考えを進んで表現できる児童が増えた。引き続き、国語科を中心に授業研究に取り組むなど、教員の授業力の向上に努める。
- ・放課後学習教室などの補充学習の成果が表れ、基礎学力の定着がみられる児童もいるが、主体的に学習に取り組む意欲や態度には差がある。
- ・「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりを進めるとともに、ICT の活用や教科横断的な学習などを取り入れ、個別最適な学びや協働的な学びを進める必要がある。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、運動する機会が減り、体力の低下が顕著に表れている。

中期目標**【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】**

- ・令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 88% (R3:83.3%) 以上にする。
- ・毎年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を毎年、前年度より減少させる。
- ・毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、毎年、増加させる。
- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を前年度より向上させる。
- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目で肯定的に答える児童の割合を、85%以上にする。

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 38%以上 (R3:33.2%) にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
- ・令和 7 年度小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 78%以上 (R3:73.3%) にする。
- ・令和 7 年度の全国体力・運動能力調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 73%以上 (R3:68.4%) にする。
- ・令和 7 年度の校内アンケートにおける「積極的に手を挙げて授業に参加していますか」の項目について「当てはまる(どちらかといえばあてはまる)」と答える児童の割合を 80%(R3:74.9%) 以上にする。

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

- ・協働学習支援ツールを用いた学習を週 2 回以上実施する。
- ・ゆとりの日を月に 1 回設定・実施する。
- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を 80%以上 (R3:73.9%) にする。
- ・令和 7 年度全国学力・学習状況調査の「5 年生のときに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、10% (R3:2.6%) 以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度（R6 85.8%）以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。（R6 84.2%）
- ・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を前年度（R6 89.9%）より向上させる。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度（R6 48.6%）以上にする。
- ・小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にする。（R6 68.5%）
- ・学校アンケートで健康に関する項目について、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]
- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を56%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合をと答える児童の割合を前年度（R6 64.8%）より増加させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立異東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 全市共通目標(小学校) ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。(R6 86%) ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。(R6 84%) ・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を前年度(R6 90%)より向上させる。 ・小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。(R6 92%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 集団作り、仲間づくりの取り組みを充実させ、子どもたちが楽しく学校に来ることができるようにする。(河野) 指標 ① 各学年の集団育成における目標に合わせた取り組みに携わる研修を行う。 ② 人権教育実践交流会で実践計画(6月)と実践内容の報告(2月)を行う。	
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめや暴力行為、不登校を生まない学校づくりを進める。また、諸問題の早期発見、早期対応を進めるために学校全体で組織的な対応を行う。(千葉) 指標 ① 生活指導部会を月1回実施し、いじめや暴力行為、不登校児童等の学年の児童の実態を共有することで、早期発見・早期対応する。また職員会議でも児童理解を行い、情報共有する。 ② 不登校児童や登校渋りのある児童には、小会議室を利用し、登校しやすい環境作りをする。	
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ポジティブ行動支援の取り組みを充実し、子どもたちがルールを守って楽しく学校生活を送れるようにする。(山内) 指標 ① 月に1回、生活指導部で各学年・クラスのポジティブ行動支援の取り組み状況や実態を共有する。 ② 学期に1回以上、児童の実態に応じた望ましい行動を増やす取り組みを全校で実施する。	
取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 児童会活動や縦割り活動を充実し、一人一人が活躍する場を多く取り入れることで自己有用感を育む。(松村) 指標 ① 子どもまつりやたてわり班活動を通して、他学年との交流を行う。 ② 年に2回以上、他学年との交流活動を行う。 ③ あいさつ週間を、学期に1回ずつ行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

大阪市立異東小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上 (R6 49%) にする。 ・ 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント向上させる。 ・ 小学校学力経年調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70% 以上にする。(R6 69%) ・ 学校アンケートで健康に関する項目について、肯定的に答える児童の割合を前年度以上にする。(R6 90%) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 子どもたちが「わかる」授業の工夫をし、学力の向上を図るとともに、考える時間・振り返る時間を確保し、思考力を育成する。(金城)	
指標 ① 算数科の学習において、単元の導入を工夫し、「興味をもって取り組みそう」と答える児童の割合を 7 割以上にする。 ② 全学年で専科制を実施し、専門性の高い授業を行う。	
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 校内研究や研修を充実させ、教員の指導力向上を図ることを通して「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を進める。(金城)	
指標 ① 研究教科である算数科の授業研究会 6 回と、自主研修会を 1 回以上実施する。 ② メンター研修を学期に 1 回以上実施する。	
取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 朝の学習・放課後学習等を通して、基礎基本の学力の定着を図る。(吉野)	
指標 100 ます計算やフラッシュカード等を活用して、朝学習だけでなく授業のすき間時間にも取り組んでいく。	
取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 休み時間を活用し運動する機会を増やすとともに、体育科の授業内容の工夫を進めることを通して、運動することが好きな児童を増やす。(大平)	
指標 ① ICT 機器を使用した体育の指導を年 1 回以上行う。 ② 体育で使用するワークシートなどの資料を共有できるようにする。 ③ 休み時間でもできる体を使う遊びの資料を共有できるようにする。	
取組内容⑤【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 感染症をはじめとする病気や学校内でのけがを予防するとともに、健全な食生活に対する理解を深めることを通して心身の健康の保持・増進を図る。(田中)	
指標 養護教諭による児童の健康保持増進に関する保健指導を年間 3 回実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

大阪市立巽東小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く] ・第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 58% 以上にする。(R6 57%) ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度 (R6 65%) より増加させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 D X (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 1 人 1 台端末の環境を生かし、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け取り組む。(江田)	
指標 ① 場の設定や放送などで、心の天気の入力を促す。 ② プログラミング教材を使用した学習を、年 1 回以上実施する。	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員の働き方改革を進める。(江田)	
指標 ① 事務処理等の業務軽減と環境整備をする。また、S S S の効果的な活用を工夫し、業務の分担を図る。 ② クラブ・委員会のない日や夏休み明け等、5 時間授業に設定し、業務を行う時間を確保できるようにする。	
取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】 学校図書館や学級文庫、区の図書館等を積極的に活用し、読書習慣の定着を図る。(中)	
指標 ① 図書委員会を中心に本が好きになるような取り組みを学期に年 2 回以上行う。 ② 週 1 回読書タイムを設定し、読書週間が身につくようにする。	
年度目標の達成状況や取組内容の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	